

発行：東京都立大学 附属高等学校同窓会
〒152-0023東京都目黒区八雲1-1-2
発行人：内野滋雄
編集：同窓会報編集委員会

母校の閉校に伴う記念碑の建立と、その後の同窓会運営について

同窓会理事長
内野滋雄(一期)

平成23年3月末日をもつて、母校東京都立大学附属高等学校は閉校となります。後継校と目される東京都立桜修館中等教育学校は、その年の4月には6年制一貫教育の全学年が揃うこととなります。旧制府立高等学校以来、幾多の俊英を輩出し、私達にとって想い出の多いこの地は、桜修館が校旗・校歌・校章を引き継いで、新しい勉学の地に生まれ変わる事になります。私も附属高校の理事

会・評議員会では、附属高校の閉校を機に記念碑を正門脇に建立し、長くその名をとどめようというこにしました。記念碑の作家は二科会理事の野上公平氏で、パーシモンホールに入る旧正門横に旧制府立高等学校と東京都立大学が建立した記念碑「燦燦(さんさん)」と同じ作家です。作品名は「繁栄」であり、この地の多くの人々の繁栄を願う意味が込められている作品です。既に閉校となった定時制

高校の記念碑は正門脇に設置されています。この記念碑建立の費用は総額500万円を予定し、附属高校同窓会のご寄附と、旧制府立高等学校同窓会の賛助金で賄う予定です。皆様のご支援をお願い申し上げます。次は、閉校後の同窓会の運営資金をどうするかです。これまでは在学中に積み立てた同窓会費で運営してきましたが、平成23年以降は同窓会費収入がゼ

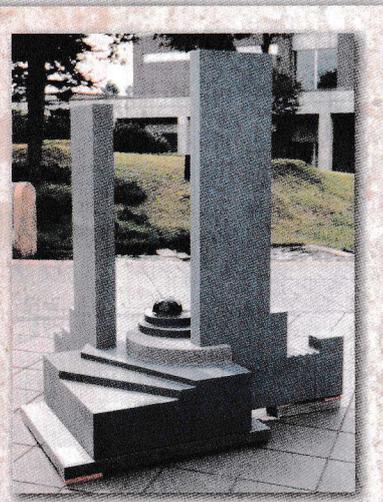
口となり、いずれは同窓会財政の枯渇が懸念されます。同窓会活動を続けることは是非、また、桜修館と同じ同窓会とするか否かについては桜修館の意向もあります。これまでの同窓会総会では、附属高校としての存続を求める声が強かったため、将来的には同窓会員の皆様から賛助会費をいただいで運営を続けるという気運になって

います。また、現在は附属高校と桜修館が記念祭や体育祭を合同で行い、非常に良い関係を保っていることから、今回の寄附と賛助金に余裕が生じた場合には、桜修館の生徒活動を支援することも検討したいと思えます。これらのことをご勘案の上、「記念碑建立資金」の募金に、できる限りのご協力をお願いいたします。

募金のお願

「記念碑の建立と閉校後の同窓会運営資金」を目的とした募金にご協力ください。●募金の方法：1口5千円(何口でも結構です) *ご都合によっては1口五千円にはこだわらませんので、多くの方のご協力をお願いいたします。●送金の方法：同封の「払込取扱票」の「金額」欄、

「通信」欄と、「ご依頼人」欄に住所、氏名、卒業期とクラス(封筒の氏名右下を参照)をご記入の上、お近くの郵便局からお振り込みください。 *振り込み手数料は要りません。●応募の締め切り日：平成21年3月31日



記念碑の概要と碑文

作者：野上公平氏(二科会理事)
寸法：幅1m62cm×高さ1m61cm
×奥行き1m20cm
材質：黒御影
設置場所：校門脇を予定
建立予定：平成22年
碑文：「繁栄」

昭和四年 七年制高等学校としてこの地に府立高等学校設立 その後尋常科四年 高等科三年の名門校として発展した戦後の学制改革により 高等科は東京都立大学に 尋常科は同附属高校となる この間「自由と自治」「真理の探求」を校是として 幾多の人材を輩出した平成二十三年 再び制度改革により 東京都立大学附属高等学校は閉校となり 校旗・校歌・校章と共に東京都立桜修館中等教育学校がこの地を継承するこれを記念し 石碑「繁栄」を建てこの地に学ぶ人々の繁栄と発展を願うのである

平成二十二年
府立高等学校同窓会
東京都立大学附属高等学校同窓会

伝統を受け継ぎ発展させる都大附

東京都立大学附属高等学校 副校長 笹のぶえ



一、学校の現状

平成二十年四月より、東京都立大学附属高等学校の副校長を拝命いたしました。府立高等学校時代から八十年に及ぶ伝統に支えられた本校で勤務できることを誇りに思っています。四月八日に、百五十九名の新入生を迎え今年度がスタートしました。最後の入学生ですが、本校の校風に惹かれ、高倍率を突破して入学した彼等は、意欲にあふれ、学校生活を満喫しています。春にバス遠足を実施するなど、新たな行事にも積極的に取り組んでいる学年です。

宿は、都立桜修館中等教育学校と合同で実施しました。総勢三百二十名が参加し、自然に囲まれた環境の中で、体力・精神力・技術を磨いて、一回り逞しくなつて戻ってきました。どの部も秋の大会での活躍が期待できます。九月十三日(土)十四日(日)には、「第六十回記念祭」が開催され、桜修館の三つの学年と都大附の三つの学年が揃って実施する初めての記念祭になりました。生徒達は残暑の中、二週間後に迫った開催に向けて、演劇・音楽・展示・模擬店等の準備で、放課後遅くまで活動していました。二つの学校が一つの行事を通して、伝統を守り確実に発展させています。

二、教員の異動状況

●転出(氏名、担当、転出先)
星野純一郎(副校長) 都立立川高等学校(定)
宮里康郎(地学 定年退職) 村田吉彦(化学)
都立小石川高等学校
●転入(氏名、担任、前任校)
笹のぶえ(副校長) 都立松ヶ丘高等学校(定)
宮里康郎(地学) 都立大学附属高等学校
岩淵 寛(化学) 新規採用

10代からの発言「自由と自治」について

三好綾(57期)

草間さゆり(58期)

「都大附Ⅱ自由と自治」というイメージを抱いている人も少なくはないのではないだろうか。都大附のように「自由と自治」を校風に掲げている学校は数少ないと思います。

都大附を卒業して気が付けば約一年半が過ぎてしまいました。今思い返しても都大附での高校3年間は本当に楽しい毎日でした。

都大附は、行事や委員会、毎日の学校生活を生徒たちの手で作り上げていくことができる学校だと思います。しかし、生徒たちにどんなにやる気があったとしても「自由と自治」は、先生方の理解と協力がなければ実現されることはありません。先生方が決めたことを生徒たちにやらせることよりも何倍も負担がかかるのにも関わらず、陰ながら支えてくださった先生方にとっても感謝しています。

そんな都大附も現在の1年生が卒業する2年後にはなくなり、完全に桜修館中等教育学校へと移り変わります。私たち

が3年生のときに桜修館の最初の1年生が入学してきましたが、学校側からは「都大附と桜修館は敷地が同じだけで、全く別の学校です。」と説明を受けました。しかし、行事や委員会等、桜修館にとつて都合のいいものは一緒にされ、都大附の「自由と自治」は制限されるようになってしまいました。

私は、「自由と自治」の校風が大好きでしたし、とても誇りを持っていました。それは今でも変わりません。できることならば、桜修館に「自由と自治」の校風を引き継いでいってほしいのですが、それは無理なことなのかなと思います。疑問や不満はとても感じますが、私たちにはどうすることもできません。都大附の後輩たちが、残りの2年半、桜修館に「自由と自治」の素晴らしさを伝え続けていき、そして、桜修館が少しでも受け入れられることを願うばかりです。

大学生になった今。高校生の時よりも十倍以上多くの自由が手に入った気がする。それと同時に、十倍以上多くの責任も負っている。「自由」とは、ただ単に自由が与えられるわけではないのだ。自由には責任が付きものである、ということに気が付かなければならない。その行動からもたらされる結果と、それによって自分はどう責任をもつことになるのか、という推測力が必要なのである。

都大附には服装・髪型の規定や学校生活での校則がない。しかし、目立った不良たちがいるわけでもないし、殴り合いの事件は起こらないし、壊れた壁もない。校則がないということは、先生たちは生徒の頭の中にある「常識」を信じているという証拠である。生徒たちはその信用を裏切らないように生活しなければならぬ。先生も生徒も、この学校に入学した時から、見えない信頼関係で結ばれているのである。「自治」という言葉には、

「自分のことを自らの責任において処理する」ということと、「自分たちに関することを」という二つの意味がある。人は、自分に責任を持って行動することができるようになれば、自分たちに関すること——つまり組織の中で行動することはできない。この先、ほとんどの人は何かしらの組織に属するだろう。そのときにまでに、自治ができる人間にならなければならないのである。そういう力を養う場として、組織の中で生きていくことを学ぶために、学校は存在するのだとも考えられる。そして、都大附はまさにその自治能力を養うことができる学校であると思う。

言葉に表すと難しいことのように聞こえるが、私たち都大附生は、自由と責任、信頼関係、自治能力を気づかぬうちに学んでいる。そしてその源にあるのは、「自由と自治」という校風なのである。

今、学校教育を改善するために何かをしなればいけない、生徒をどう

東京都立大学附属高等学校同窓会 平成19年度収支計算書 平成19年10月1日～平成20年9月30日 (単位:円)

収入の部		支出の部		
摘要	金額	摘要	金額	割合(%)
平成19年度名簿売り上げ代金(@2,500円×1部)	2,500	会報費	20,379	7.8
第58期生会費(月120円×12ヶ月×3年×160名)	691,200	印刷費(註1)	148,643	56.8
会報広告料(シェ松尾)	50,000	通信費	33,260	12.7
預金利息:さわやか信金(普通)	3,332	評議員会議費	49,960	19.1
みずほ銀行(定期)	19,713	交通費	4,200	1.6
小計	766,745	事務用品費	3,588	1.4
前期繰越金	9,278,098	手数料	1,655	0.6
収入の部合計	10,044,843	小計	261,685	100
		次期繰越金	9,783,158	
		支出の部合計	10,044,843	

註1:平成20年4月発行の名簿補遺印刷代137,456円を含む

財産目録 (平成20年9月30日現在) (単位:円)

科目(銀行、郵便貯金)	当期末(平成20年9月30日)	前期末(平成19年9月30日)	増減
さわやか信用金庫(普通)	2,267,631	1,784,284	増483,347
みずほ銀行(定期)	7,041,027	7,021,314	増19,713
郵便貯金(普通)	474,500	472,500	増2,000
合計	9,783,158	9,278,098	増505,060

平成19年度名簿在庫	1,377,500	1,810,000	減432,500
	奥村印刷549部+野口2部=551部	奥村印刷715部+野口9部=724部	*差し引き173部減

*173部中1部は売り上げ、164部は第58期生と担任教諭への贈呈

監査報告:提出された平成19年度の原簿等を精査し、収支計算書、並びに財産目録に誤りのないことを確認します。

監事代表 新井正己 (印)

還暦を迎えた 「第60回記念祭」

レポート
山田健一朗(58期)



「第60回記念祭」パンフレット表紙

9月13日(土)、14日(日)の両日に開催された「第60回記念祭」は、卒業生として初めて見に行く記念祭となりました。

還暦を迎えた今年の記念祭は、桜修館も3年生までが揃い、6学年での記念祭ということで、とても規模が大きく、模擬店では生徒達が大きな声を出し、きれいに装飾され、こだわりのある個性的な店はどこも大繁盛。

そして記念祭といえばクラスごとの演劇。メインアリーナで行われた3年生の劇はとてども迫力があり、見ているとその世界に引きずり込まれそうになるほどの迫真の演技で、役者をサポートする照明や音楽の担当者が一丸となっているからこそ出来るすばらしい内容で、自由と自治の伝統ここにありと感ずることが出来た記念祭でした。

今年行けなかった方も、来年こそ是非とも後輩たちの勇姿を見てあげてください。

会報発行月の変更について

従来同窓会報は、「記念祭にOBの参加を呼びかけること」を目的に9月1日を発行日としていました。が、当会の決算日が9月30日であることから、決算報告を会報に掲載することが出来ませんでした。そこで、去る4月19日に

開催の理事・監事・評議員会議の席上、「発行日を12月1日に変更し、前年度の決算報告を掲載すること」が議決されたことを受け、前年度(平成19年度)の収支計算書を前ページに掲載しましたのでご確認ください。

制御すべきか、という風潮があるが、「何もしない」という選択肢もあるのではないかと。生徒は、先生が何から何まで指導しなくても、自ら成長する力をもっているのだと思う。

感じたことだ。桜修館の生徒も、私たち都大附生を見て、多くのことを学んでいるはずである。桜修館の生徒、先生たちは、自分たちの学校の前に存在した都大附に、「自由と自治」という素晴らしい校風があったことをどうか忘れないうでほしい。

大橋辰徳(58期)

都大附を卒業してからの日々、僕は高校時代のことをよく振り返る。きつと、これまで19年とチヨットの僕の人生の中で、今まで体験したことのない濃密な時間を過ごしたからだろう。

僕は、1・2年で自治会役員を経験し、桜修館の開設に立ち会った。中学生を後輩に迎え入れるには、桜修館の先生との調整などかなり苦労した。正直、僕らの思っていたこととだいぶ違うこともあった。

自治会の任期が終わるころ、僕はクラスマッチの幹部に呼ばれ、3日目の団体競技を任せられた。引き継ぎもろくにないまま、はつきり言ってゼロからのスタートだった。そこから、僕らの戦争のような日々が始まった。ひとつのハードルを乗り越えたらまた次のハードルが現れる。今思えば、その繰り返した。

都大附で過ごした3年間で、僕は「自由と自治」の精神を学んだ。それは、自分たちの自治が出来てこそ自由が得られる、ということだ。僕らの背中を見てきた後輩たちが、都大附の伝統「自由と自治」をさらに伸ばし、桜修館の後輩が受け継いでいくことを期待したい。

返しだった。でも、僕らはとことん考え、話し合い、ひとつひとつの課題を解決し、無事にクラマチを終えることができた。これは、自分ひとりではできないことではない。幹部として一緒に戦ってきた仲間がいて、彼らとの『絆』があつてこそそのものどと思う。それを感じたとき、僕は都大附にいて良かったと思つた。

まず始めに、私は都大附の卒業生であることを誇りに思っています。都大附で過ごした3年間は、本当に有意義なものでした。実際に都大附で過ごし、卒業したからこそ言いたいことは、桜修館を都大附と別の学校として新しく創るのではなく、都大附を改編して創る学校と考えるな

受け継がれて欲しい理念

田中駿一(3年生)

自由と自治。全校集会などでも先生がよく取り上げるこの言葉。都大附に入学してどれくらい耳にしただろう。この校風は現代社会の風潮をよく反映している校風だなどつくづく思う。何故なら日本では長年続い

てきた「ムラ」の考えから「個」の尊重へと変化しているからだ。「個」を尊重するために自らで自らをコントロールしなければならぬ。それを養うために掲げられた理念こそがこの自由と自治なのだと思う。都大附は近いうちに桜

修館へと移行する。都大附の歩んできた道とはまた別の道をこれから進んでいくことになるだろう。ただ、自由と自治という校風を掲げた学校は数少ない。だからこそ、都大附の軌跡として受け継がれて欲しいと思う。

らば、今桜修館に通っている人はもちろんのこと、先生方にも今一度自由と自治の意味について考えてほしいということだ。都大附は校則もないし確かに自由だけど、ただの自由ではありません。自治が伴う自由なのです。自治が伴う自由。当たり前のように、意外と意識しないことだと思えます。

都大附ほどに濃い青春時代を過ごせる学校はそうそうありません。これから桜修館がどのような学校になっていくのかまだわからないけれど、上にも書いたとおり、都大附を改編すると考えるのなら、出来る限り都大附の雰囲気を残し、今まで通り生徒主体の学校にしたいと思っています。

篠原千恵(58期)

都大附ほどに濃い青春時代を過ごせる学校はそうそうありません。

これから桜修館がどのような学校になっていくのかまだわからないけれど、上にも書いたとおり、都大附を改編すると考えるのなら、出来る限り都大附の雰囲気を残し、今まで通り生徒主体の学校にしたいと思っています。

特集 思い出の部活動 連載:Vol.2

原稿募集:「思い出の部活動」を毎号連載しますので、部・サークル・同好会の歴史・現状などの原稿を募集します。
締め切り:毎年9月15日、本文:400字程度 送り先:〒158-0084 世田谷区東玉川2-3-15 野口貞義方 同窓会報編集室

50年前の蹴球部のこと 高田宗昌(4期)

練習で使えるボールはチーム全員で2個。グラウンドの半分は草茫茫々。高校からボールを蹴り始めた部員が僅か十数名。でも、チームワークは抜群で、都の大会ではベスト16を窺える力があつた。部室には「サッカーは棘のあるチューインガムか。



昭和27年5月クラスマッチ後の蹴球部選手

現在のサッカー部

大場 良(58期)

現在、都大附サッカー部は今までの通り高校1年生から3年生での活動が中心です。しかし来年からは桜修館の中学3年生が高校1年生となるため、中学生の大会終了後は高校生に混じって同じチームとして練習していきます。実際に今年の夏合

宿では高校3年生から中学3年生の4学年合同での合宿でした。

大会にはまだカテゴリーが違うため出場できませんが高校生は来年から同じ仲間としてチームを作るため、高校生への刺激にもなり、また早期

思い出の野球部

上利泰一郎(9期)

から同じチームとして練習を行っているため完成度も高くなるのが期待されます。現在は部員数も多いため、それぞれが強い気持ちを持っていれば切磋琢磨してレベルアップにもつながると思います。

あれは二年生の時、東京都予選一回戦で勝てば、あの世界の王選手が四番ピッチャーの早実と当たることになってどうして

も一回戦勝ちたかつたのですが、不可解な投手起用で初回に大量点を献上、後半粘ったが5-18で昭和一商に敗れました。誠に残念。王選手から一本打ちたかつたのに。

もう詳しいことは忘れてしまいましたが、大美重徳名コーチ(六期生)のもと結構練習もしました。夏合宿だつてしました。尤も教室に泊まって校庭での練習ですけれど。布施純代さん(九期生)あの時にご飯を炊いていただけだ。何せ貧乏な部です。古くなったボールはタコ糸で縫い直して使っていました。超OBには故鳩山威一郎氏他金持ちが沢山のたので活動費のカンパをお願い

にあの音羽御殿を訪ねた者もいました。

試合相手は都立日比谷戸山、広尾高校なんかと定期的に行っていました。

以下は都合で一緒に行かれなくなった西澤元主将宛の今年の甲子園大会東京東予選一回戦の観戦報告です。最後の現役の奮闘ぶりを再現致します。

「単身勇躍神宮球場に参上せり。ちと遅れたるが一回裏母校の攻撃中で右中間を破る二塁打にて一点。スコアボードを見やると既に敵軍都立青山高校は一回表に2点を先制せり。しかしながら両軍選手を観察するに両軍技量甲乙つけがたしと見ゆる。

分刻みで上昇致す気温にしばし全体を俯瞰致すに、グラウンドの緑とスタンドの青が実に美しき対比をなし申し分なし。拙者らもこのような球場で一



現在の野球部

佐藤美由紀(58期)

度果し合いを致しかつたで御座る。選手に目を転ずると、紐育ヤンキー軍、はたまた阪神虎軍も斯くやのピンストライプに鮮やかに「都立大附」と染め抜き、応援席には両軍とも吹奏隊を待たずあり。果たして戦況はその後両軍とも1点づつを加え五回表の敵軍の攻撃。死球、捕逸、野選、失策を連続し3点を献上。悪しき伝統甦りしかと落胆せるも、すぐさまその裏長短打を集中し一挙4点、6-6に追いつく。その後さらに1点づつを加え、7-7で最終回。敵軍は

四球を手始めに連続長打で2点、更に暴投で1点追加。7-10で最終回裏を迎えた。いよいよ最終回裏母校の反撃。安打、四球、死球でたちまち満塁。すわつ、逆転満塁さよなら本塁打といきり立つたが、後続が内野ゴロ本封、浅い外飛、内野ゴロで万事休す。ここに「都立大学附属高校野球部」は永遠に消滅致したで御座る。」

私たちの野球部は週1回のOFFで、土日はほとんど練習試合という活動をしていました。練習試合も遠征ばかりで、交通費がたくさんかかって大変でした。学校のグラウンドでの練習は、外野ノック、内野ノックをやり、マシンでのバッティング練習をやったりしていました。夏休みには毎年恒例の合宿に行ったりして、練習はかなりハードだったと思います。部員もマネージャーも走りっぱなしで夏はへんどでした。冬はボールを使わない

ので、トレーナーの方が
考えて下さったメニューを
やっていました。その中に
はタイヤを使ったトレーニ
ングもあって、部員がタイ
ヤを引きながら逃げて、
監督やマネージャーが追
いかけるという鬼ごっこ
をやったりもしました。
雨でグラウンドが使えない

生物部そして斎先生の思い出

井上朋也
(13期)

生物部を語る時、特
筆すべきは合宿による実
習であろう。臨海実習
(小湊へウニの発生実習
等々)と山行合宿(追分山
荘、野辺山の宿泊施設に
合宿し植物や昆虫の採集
等々)があった。どちらも
夜遅くまで図鑑を広げ分
類したり研究した。そし
て忘れてはならないのは
OB・OGの協力体制であ
った。記念祭には勿論、
その準備にも必ず誰かが
来部していた。合宿にも
同行し、常に安全に気を
配っていた。ある意味では
この協力があってこそ合宿
が成立できたと思う。

日は、体育館で羽打ちや
筋トレをしていました。
楽しい事はかりでなく
辛い事が多かったけれど、
それでも最後の夏大での
1勝は、それを弾き飛ば
すくらい嬉しい1勝でし
た。私はこの野球部に感
謝の気持ちでいっぱいです。

生物部を語る時、特
筆すべきは合宿による実
習であろう。臨海実習
(小湊へウニの発生実習
等々)と山行合宿(追分山
荘、野辺山の宿泊施設に
合宿し植物や昆虫の採集
等々)があった。どちらも
夜遅くまで図鑑を広げ分
類したり研究した。そし
て忘れてはならないのは
OB・OGの協力体制であ
った。記念祭には勿論、
その準備にも必ず誰かが
来部していた。合宿にも
同行し、常に安全に気を
配っていた。ある意味では
この協力があってこそ合宿
が成立できたと思う。

現在の生物部

山下佳有希(58期)

一口に生物部と言っ
ても、怪しい生体実験をし
たり生物についてさらに深
く知るために研究するわ
けでもない。ウサギやらモ
ルモットやらウーパール
パーやら金魚の世話をし
て戯れるのが主な活動だ。
むしろ飼育委員と言った
ほうがしっくりくる。アジ
トは生物室と生物準備室。
哺乳類は冷暖房完備の生
物準備室で、人間様より



厚遇を受けている。
顧問は生物担当の松田
先生。先生は元獣医とい
うことで、生物部として
はとても心強い。よく人
生相談にものつてくれる
い先生だ。お互い熱く語
って気付けば3時間経って
いることもざらにあった。
生物部は活動こそ地味な
部活だが、その分ゆったり
と先生と会話ができる精
神的に成長する部活だ。
去年の夏にウサギ2羽
が寿命で、そのあとに飼
ったモルモット2匹も今年
の春になぜか亡くなって
しまったから、現在はウ
ーパールパーと金魚が生
物の主役の座だ。
飼育する動物が変わっ
ても生物部のあののんび
りな感じは変わらないだ
ろう。これからもずっと変
わらないでいてほしい。

写真部の誕生

服部 昶(3期)

私が入学した昭和25年
は初めて新制中学の卒業
生が高等学校へ入学する
年に当たります。私共は小
学校6年生から中学3年
生まで4年間にわたり最
上級生であったわけです。
(中学は新制中学で私共が
一期生となり3年間最上

級生でした。)高校に入り
久しぶりに上級生と接す
ると自分達よりとても大
きな大人に見え、皆ギャ
ップを感じたようです。
私が入学した当時は、
独立した写真部は活動を
休止していたようで、組
織がなかったと思います。

現在の写真部

桑山理彩(2年生)

当時カメラが少なく(個人
が持っている人も少なく)
当然現像や焼付、引伸し
をする店も少なかったと
思います。当時はまだ白
黒写真で大きな版の印画
紙もメーカーまで行かな
いと市販していませんで
した。
カメラはライカが中心
で、やっと国産のカメラが
発売され始めた頃です。
当時の部活動は部全体の
まとまった活動はほとん
どなく、個人的に活動し
ていたと思います。
たまたま私の担任の先
生が松岡先生であったた
め、美術と合同で活動さ
せていただきました。部
のスケッチ旅行に同行し
たり、人物のデッサンのと
きにポートレートの撮影
などを美術部の人達と合
同行っていました。
当時の部活動は部とし
て合同で行うことは少な
く、個人が撮影した作品

を評価したりトリミング
の意見交換したりする程
度で、部としてまとまっ
て活動した記憶はありま
せん。
写真部の活動とは必ず
しも云えませんが、私の
最も強烈な記憶は、川上
君(同期生)の体育館屋上
からの転落死事件です。
当時は記念祭で酒を飲ん
で寮歌を歌い、ファイヤー
ストームをするのが我校
の伝統行事でした。飲酒
の経験のない新制中学卒
の若者には無理に飲んだ
酒がきいて、体育館の屋
上のフチに寝てしまい転
落死しました。
毛布の端が屋上のフチ
に残って風に吹かれる様
は、とても物悲しく見え
ました。当時一緒に酒を
飲んだ人は碑文谷警察の
講堂に呼ばれ、署長から
「甘い酒ならともかく、か
らい酒は飲んではいかん」
とお説教を受けました。

現在の写真部

桑山理彩(2年生)

私たち写真部は部員20
名で兼部者がほとんどで
す。主な活動の大半は個
人活動として行っている
ので、部活は連絡がある時
だけ行っています。写真は
人好きな時に撮りたいも
のを撮り、写真部の専用
パソコンを使い暇な時に

欲しいだけ印刷できます。
このように自由奔放な
写真部ですが、年に二回
ほど行われる写真展に出
品される作品はどれも個
性的で、作品が東京都代
表作品に選ばれたことも
あります。
そして時に部員たちの
思いつきによって、皆
で外に向いてみたりも
します。この前は浅草に
行きました。
デジタル一眼レフやデ
ジタルカメラ携帯電話ま
で、最近では色々な点でデ
ジタルでの写真の方が撮
るのに身近で、編集する
のに便利になってい
るので、部内でもアナログ
の写真は少ないですが、
暗室はめったに使わな
いにしても、中にはこだわ
りを持ってフィルムで現
像している人もいます。
部員のいい写真を見る
と私も上手くなりたいと
思います。これからも部
員同士いい刺激をしま
います。



活発な同期会・クラス会・同好会レポート

第4期生の集い
2008

日時：平成20年9月20日(土)
午後1時より

会場：原宿東郷記念館

「クラブ水交」

参加者：33名

二年ぶりの同期会を、元海軍の将校クラブ「水交社」、現在の「クラブ水交」で開きました。ご臨席いただいた喜多先生から「水交社」のいわれ、「水如淡交子君(君子の交わり淡くして水の如し)」というスマートな海軍と、陸軍のクラブ「偕行社」との違いについて、100分ならぬ15分授業をいただいた後、八雲が丘での青春に思いを馳せました。

(野口貞義・記)



第6期
古希記念同期会

日時：平成20年5月19日(土)
午後1時より5時過ぎまで

会場：レストラン

「銀座クルーズ・クルーズ」

参加者：43名

6期の古希記念同期会は銀座クルーズ・クルーズで、4月19日(土)、43名の仲間が集まり無事開催できました。前回の卒業50周年を祝う会から2年間、計報が無かったことは何よりでした。今回の会場は年金世代の我々にふさわしく、会費を抑え駅近くの場所を選び、大方の賛同を得たようです。少々手狭感はありましたが、それでも芸達者な仲間達の音楽の時間もあり3時間はあつという間に過ぎました。

(戸井啓雄・記)



第16期ABC組
合同クラス会

日時：平成19年10月13日

会場：飯田橋

「フジボウ会館」

参加者：70名

還暦を迎え、懐かしい連中と語らおうと企画されましたが、中には卒業以来という人も多く、当時の顔写真付きの名札が役に立ちました。田中梢(現姓は渋谷先生)にもご出席いただき、最後には皆で記念祭歌も合唱して、大変盛り上がりました。(鳴本昌資・記)



第17期C組
クラス会

日時：平成19年9月29日
(土)午後5時から

会場：「ブラッスリー オペラ・シエ松尾」

参加者：21名

担任の三木 亘先生にもご出席いただき、会場も母校の隣接地、都立大学跡地にできた目黒区民キヤンパスラザの一角のレストランということでも、皆々感慨もひとしお。楽しく、懐かしく、時間を忘れて思い出話に花を咲かせました。また、2年後の再会を約束しました。(幹事：深田公利・記)



第25期B組
クラス会

日時：平成20年6月28日(土)
午後5時から

会場：都立大学駅「鳥半」
参加者：21名

吉田先生の古希のお祝いを兼ね、数年ぶりにクラス会を開きました。もうすぐ無くなる「都立大学附属高等学校」の名称を惜しみ、クラス会の前には学校周辺を散策しました。その後、「鳥半」で、夜遅くまで旧交を温めました。(藤原康一・記)



第26回八雲展

今年は5月23日金曜日から28日水曜日まで、山手線大崎駅前にある区立O(オー)美術館で「第26回八雲展」が行われ、906名の方が来場されました。出展者44名のうち13名(うち2名故人)が旧制高校、10名が都立大学、21名が新制附属高校の同窓生です。

作品は100号の大作から銅版画の小品までの絵画、彫刻、立体構成、コンピュータグラフィックの作品まで、作者の年齢、技術、

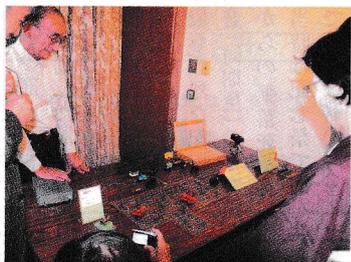
それぞれに大きな幅を持った自由な展覧会で、来年も開催の予定ですので、絵を描いておられる同窓生の新入会を歓迎します。連絡先事務局：杉本眞理子(7期)
04247211015



機研OBの
親睦会2008

日時：平成20年10月18日(土)
午後1時より

会場：原宿東郷記念館
「クラブ水交」
参加者：25名



手塚要(4期)、上岡信次(5期)両君による鉄道模型の運転

昨年引き続き、鉄道記念日直近の土曜日、二人の女性OG(鉄子?)を迎え、1期から24期までの25名が集い、鉄道・自動車・旅行といった趣味の現状報告、情報や資料の交換、DVDの上映、鉄道模型の運転と、多彩な二時間を楽しみました。(野口貞義・記)

原稿募集

同期会、クラス会、同好会のレポートを募集します。原稿の要領は、①会の名称、②開催日時、③会場、④参加人数、⑤内容の説明、⑥会を象徴する写真1枚を添付
次号原稿締切日：平成21年9月15日
原稿の送り先：〒158-0084 世田谷区東玉川2-3-15 野口貞義方 同窓会報編集室 03372016007

同窓会への連絡は

住所変更など同窓会へのご連絡は「郵便」で左記までお送りください。
〒152-0023 目黒区八雲1-1-2 東京都立大学 附属高等学校同窓会